

The efficiency of human capital allocations in developing countries

Dietrich Vollrath

Journal of Development Economics

Volume 108, May 2014, Pages 106-118

発展途上国について、個人レベルの賃金データから推定される部門間の賃金格差の違いが、総生産性に有意な影響を与えるかどうかを評価している。人的資本の均質性に関する仮定の下で、分析は、さまざまな部門の賃金間のくさびをなくすと、ほとんどの国で 5%未満の生産高の増加につながることを示している。未測定の人的資本の量に関する合理的な仮定の下では、再配分による利益は 3%を大きく下回る。米国のデータを使用して行われた同様の推定と比較すると、発展途上国は人的資本の再配分からより多くを得ることができる。

本論文は途上国において人的資本配分が適切に行われていないことが示されている。国として発展を遂げるためにも適切な資源配分が必要である。